

発行/伊勢原市 編集/広報戦略課
〒259-1188 伊勢原市田中348番地
☎0463-94-4711(代)
FAX0463-93-2689



伊勢原市は令和3年3月1日に
市制施行50周年を迎えます

市公式ホームページ 伊勢原市 検索
「いせはら 暮らし安心メール」の
配信登録や閲覧は、市ホームページから



おもな記事 ● 2面・・・秦野市・伊勢原市消防通信指令事務協議会を設置 ● 4・5面・・・想いが連なり、カタチが残る 発行部数/38,700部

重要無形文化財：日本の伝統芸能や工芸技術のうち特に価値の高いものを指定し、その体得者が「保持者」として認定されています。認定方式には「各個認定」「総合認定」「保持団体認定」があり、各個認定の保持者は一般に「人間国宝」と呼ばれています。



奏

市内初の重要無形文化財保持者が誕生

長唄：江戸時代に歌舞伎の音楽として発祥。唄、三味線、鳴物(鼓や笛など)から構成され、後に歌舞伎から独立した音楽としても演奏されるようになりました。

略歴
昭和16年生まれ。大山在住。東京芸術大学邦楽科卒(長唄囃子1期生)。結婚を機に、25歳で伊勢原に。人間国宝の四代目賣山左衛門に師事し、上野奏楽堂でのソロリサイタルなど、数多くの演奏会に出演しています。

「笛は喜怒哀楽といった感情を表現できる繊細な楽器。基本を忠実に守りながら、一つ一つの音を大切に演奏してきました。伊勢原の子どもたちにも、長唄の奥深さや笛の面白さを伝える機会があれば」と語る福原さん。
和の調べを極めただけでなく、過去には母校である東京芸術大学の講師を務めるなど、後進の育成にも励んでいます。現在、新潟県にあるけいこ場や、東京都内に約20人の弟子がいるそうです。
福原さんが奏でる伝統の音色は、これからも脈々と受け継がれていくことでしょう。

「奏」という字には「音楽を奏でる」のほかに、「物事を成し遂げる」という意味があります。この字を体現している人こそ、市内大山在住の笛演奏家・福原洋子(本名尾崎洋子)さんです。
福原さんは、7月17日の文化審議会による文部科学大臣への答申により、国指定重要無形文化財「長唄」の保持団体「伝統長唄保存会」会員として総合認定されることが内定しました。
そして10月9日、大臣による官報告示で正式認定となりました。国の無形文化財保持者の誕生は、本市初の快挙です。

新型コロナウイルス 関連情報 市長メッセージ

新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向けた取り組みにご協力いただき、心より感謝申し上げます。
さて、これからの季節は、季節性インフルエンザと新型コロナウイルス感染症の同時流行に注意が必要です。市では、コロナ禍の下、インフルエンザの流行を抑え、高

齢者の重症化リスクや医療機関の負担を軽減するため、65歳以上の方のインフルエンザ予防接種を無料にしています。多くの方の接種をお願いします。
また、感染ルートとして家庭内での感染事例が見受けられます。帰宅したらずぐに手を洗う、料理は小皿に取り分ける、室内

の換気をするなど、できる限りの感染防止に努めてください。
市では今後も関係機関などと連携しながら、感染拡大防止に全力で取り組んでまいりますので、市民の皆さまのご理解とご協力をお願いします。
伊勢原市長 高山 松太郎